

木造船に関する基礎調査

報告書

2002年5月



日本財団
The Nippon Foundation

海洋船舶部

目 次

木造船に関する基礎調査について	2
-----------------	---

調査結果概要

1. 主旨	3
2. 内容	3
2-1. 木造船に関する基礎調査について	
2-1-1. 調査主旨	
2-1-2. 方法	
3. 調査期間	4
4. 調査結果概要	4
4-1. 各漁協における現存する木造船のデータベースの作成	

アンケート結果（グラフ）

都道府県別総回答数・情報提供回答数（全漁連・業種別＜海＞）	6
都道府県別総回答数・情報提供回答数（内水面＜川・湖＞）	7
都道府県別木造船現存数	8
都道府県別現存船大工数	9
都道府県別船大工年齢構成分布図（全漁連・業種別＜海＞）	10
都道府県別分大工年齢構成分布図（内水面＜川・湖＞）	11
都道府県別木造船模型現存数	12
5. アンケート結果からの考察	
5-1. 木造船について	13
5-2. 内水面（川・湖）について	14
5-3. 船大工について	15
5-4. 技術の継承・保存・記録について	16
5-5. 木造船の建造・収集・復元・保存について	21
6. 木造船技術の保存等に関する各漁協からのコメント一覧	
6-1. 全漁連・業種別＜海＞	22
6-2. 内水面＜川・湖＞	28
7. 別表 和船文化・技術研究会委員名簿	29
8. 木造船に関する基礎調査フォーム	31

木造船に関する基礎調査について

本調査は、日本財団海洋船舶部により、日本各地域の漁連、漁協にアンケート調査を実施し、その結果を取りまとめたものです。

日本財団は、創立以来今日まで 30 年以上の間、海洋船舶の分野において、先進的な船の技術開発を支援してまいりましたが、日本の木造船を見直し、先人の知恵を後世に残し、社会に開き、共有していくことも海洋国家日本にとって欠かすことができない重要な課題であると考えています。

日本は四方を海に囲まれていることから、昔から船は漁業、物資輸送等の手段として重要であり、日本の自然や用途に合わせ、さまざまな木造船（和船）が建造されてきました。しかし、日本の近代化が進むにつれ、木造船は鉄船や FRP 船に取って替わられ次第に建造されなくなり、わずかに漁船の建造において残っていた木造船も消えつつあります。また、木造船を建造できる船大工の人数の減少、後継者難、高齢化の進行などにより、技術が伝承されることなく消えつつあり、「和船」、「船大工」、「漁労習俗」等の社会的な資産と、それに関する貴重な資料が失われつつあります。

そこで、日本財団では和船文化・技術研究会を設置し、各漁協における木造船の残存状況や船大工に関して調査を行い、これらを社会遺産として後世に残すための方策を検討してまいりました。

今般、その実態が把握されていない木造の小型漁船について、全国の漁業協同組合を通じ現状を調査し、基礎資料を作成しました。

本調査結果は、貴重な日本の木造船技術の資料の保存・管理と次世代への文化的な遺産継承のため、個性豊かな地域の振興や活性化を図るため、さらには 2002 年から実施されている「総合的な学習の時間」に小中学生が自分達の地域の歴史や文化を調べるための基礎資料として活用されれば幸いです。

末筆になりましたが、貴重な時間をさいて調査にご回答頂きました方々にこの場を借りて厚くお礼申し上げます。

2002 年 5 月 20 日
日本財団 常務理事
寺島紘士

調査結果概要

1. 主旨

日本は四方を海に囲まれていることから、昔から船は漁業、物資等の輸送手段として重要であり、日本の自然や用途に合わせ、様々な木造船（和船）が建造されてきた。しかし明治以降、日本の近代化が進むにつれ、木造船は鉄船や FRP 船に取って替われ、次第に建造されなくなり、「和船」「船大工」「漁労習俗」等の社会的な資産とも言える貴重な資料が失われつつある。

そこで当財団では、2001 年 5 月に発表した和船及び船大工に関する全国調査の結果を踏まえて、貴重な日本の木造船技術の資料保存・管理方法と次世代への文化的な遺産継承のため施策を検討するため、和船文化・技術研究会を設置し、下記の事項について調査、検討することにした。

委員会の構成については別表に示すとおりである。

- (1). 各漁協において、木造船がどの程度残っているのかを調べ、これらの収集・保存に向けた基礎資料とし、社会遺産として後世に残すための方策を検討し、その具体化を行う。
- (2). 日本に今、木造船を建造できる船大工の方がどれくらい残っているのかを調査し、その技術等を何らかの形で残す方策を検討し、その具体化を行う。

2. 内容

2-1. 木造船に関する基礎調査について

2-1-1. 調査主旨

「和船文化・技術研究会」が我が国の木造船文化や技術を、社会遺産として後世に残すための方策の検討、及びその具体化を行うにあたり、まずは木造船と船大工の現存状況を把握する必要があった。しかし現状ではこのような資料は皆無であることから、各漁協に対し木造船がどの程度残っているか、また木造船を建造できる船大工が何人くらい生存しているのかについてアンケート調査を行い、木造船現存状況に関する基礎資料を作成することとした。

2-1-2. 方法

調査は全国漁業協同組合連合会の協力を得て、各地の漁協等 2,820 件に対しアンケート調査を以下のとおりに実施した。

<調査先>

①都道府県漁連	(海)	42 件
②地区漁連及び漁協	(海)	1,784 件
③業種別漁協ほか	(海)	241 件
④内水面漁協	(川、湖)	753 件

<設問>

- ①漁協の周辺に、今でも残っている木造船はあるか？ (ある／なし)
- ②残っている木造船の概要(呼び名、隻数、主な用途、使用状況)
- ③木造船船大工はいるか？ (いる／いない)
- ④船大工の連絡先(氏名、年齢、住所、電話番号)
- ⑤漁協関係者で模型を所有する人はいるか？
- ⑥模型の種類と所有者(名称、所有者住所、電話番号)
- ⑦その他、木造船技術の保存等に意見・感想、海・船に関する資料などの情報

3 調査期間

アンケート発送 : 2002 年 1 月 10 日 (木)
回答締め切り : 2002 年 2 月 1 日 (金)

4 調査結果概要

発 送 数 : 2,820 件
総 回 答 数 : 1,122 件 (回答率 39.8%)
情報提供回答数 : 624 件 (総回答数に対して 55.6%)
(木造船、船大工、模型、木造船技術保存等に関する情報提供があった回答数)

木 造 船 残 存 数 : 9,939 隻
船 大 工 残 存 数 : 479 人
船大工平均年齢 : 65.2 歳
模 型 数 : 88 隻

(内訳)

	総回答数及び 情報提供回答数	木造船残存 隻数	船大工 残存数	船大工 平均年齢	模型数
全漁連・業種別	870／534	6,953	431	65.7	81
内水面漁連	252／90	2,986	48	64.6	7
合計	1,122／624	9,939	479	65.2	88

(アンケート結果グラフ参照)

4-1. 各漁協における現存する木造船のデータベースの作成

概要

本データベースは Excel95 を用いて調査結果をシンプルな一覧表にまとめたもので、Excel の標準機能としての抽出や検索、並べ替えなどの機能を利用すると、データの閲覧がさらに容易になるものとした。

(1) 現存する木造船一覧. xls

各漁協に対し行なったアンケート調査の結果、「木造船がある」と回答のあった漁協の一覧リストである。各漁協の所在地や連絡先のほか、どのような船があるのかを簡単に検索できるようにしている。

(2) 成果の公表

データベースをダウンロードし、実行すれば簡単に利用できるよう日本財団のホームページに掲示する。